



2013～14 年度
国際ロータリー会長

Ron D. Burton

Weekly Report Niigata



2013～14 年度
新潟ロータリー会長

山本 正治



ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

2013～14 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 5 月第 2 例会 (2014.5.20) No.3040

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 山本 正治会長挨拶

今日は「一目でわかる本物のロータリアン」について考えてみたいと思います。私がなぜこんな変なことに拘っているのか、その背景事情をお話しします。私は国立大学に41年間勤務しましたが、そのうち26年間は教授として医学教育に携わりました。その間約3500名の卒業生を送り出しました。彼らの多くは臨床医として地域社会で活躍しています。私はこの経験を通してある結論に到達しました。それは学生が将来医師として地域住民の期待に沿って活躍できるかどうか、一目で予測できることです。入学試験の成績や卒業時の席次で彼らの将来は予測できません。予測できるのは唯一「あいさつができるかどうか」です。卒業後の彼らを見守ってきましたが、在学時代にあいさつができる学生は卒業後も地域社会でちゃんと頑張っており、まさに地域社会が期待する医師となっています。

この経験を通して、地域社会が期待する本物のロータリアンを一目で見抜く方法があるかどうか考え始めました。特に私自身が地域社会で期待されるロータリアンかどうか気になったからです。

ここで皆さまに問題をお出ししますので、答えていただきたいと思ひます。

問題 本物のロータリアンかどうか一目で分かる人は、次のどれでしょうか。

- (1) ロータリーバッジ (正確には徽章) をいつも付けている人
- (2) ロータリー財団に高額な寄付をしている人
- (3) 本来の仕事を優先し、例会に出席できなかった時にはメイクアップをする人
- (4) 財団寄付などを「集める」と言わず、「いただく」と言う人
- (5) ロータリアン同士で仕事上の相談や飲み会をしている人

私なりの正解を発表します。正解はどれも正しいのです。しかしこれでは解答になりません。そこで各項目に対する私なりのコメントをします。

(1)ロータリーバッジをいつも付けるのは困難なので、

いつも付けている人を尊敬します。私の場合、勤務する大学にいる間は大学のバッジを付け、ロータリーの例会ではロータリーバッジに付け替えています。紅灯の巷ではどちらにも付けません。

(2) 高額な財団寄付ができる人を私は尊敬します。ただしシカゴの国際ロータリー本部に飾られている高額寄付をした日本人の写真をみると複雑な思いです。国内での評価との間にギャップがあるからです。

(3) ロータリークラブの原点は職業奉仕です。本来の仕事がちゃんとできて初めて奉仕の気持ちが湧いて来ます。通常ロータリアンは自分でスケジュール調整ができる人が多いですが、やむを得ない場合はメイクアップで埋め合わせをしたいものです(『メイクアップの実態を表す日本語表現』を参照)。誠実かつ信頼できる人と思われるからです。

(4) 寄付を「いただく」と言える人はロータリアンとしての自分の“立ち位置”をわきまえた人です。私は誤って地区の財団委員会で、「寄付をもっと集めなければ地区活動はできない」と発言しました。その時私を諫めてくれたガバナーがいました。「財団寄付は集めるのではなく、いただくものである」と。今でもこのパストガバナーを尊敬しています。「いただく」と自然に言える人は、「一目で分かる本物のロータリアン」です。

(5) 仲が良い者同士で飲み会をする人は本音で生きるロータリアンです。

どれも正解にしたいのですが、私は(4)を正解に選びました。その理由として、ロータリアンは本来、“自分のお金”で地域社会へ奉仕すべきと思うからです。寄付を「いただく」と言える人は、ロータリアンとしての“立ち位置”をわきまえた人です。「集める」人は、やはり上から目線の奉仕と誤解されそうです。いろいろな反論はあると思いますが……。

(3) ビジターの紹介

・松本 英明君(浪江RC)

・高坂光一君(高田RC 次年度地区青少年奉仕委員長)

(4) R-列の友紹介 (川崎 嘉朗委員長)

(5) 委員会報告

・徳永 昭輝米山奨学委員長より現在まで頂いた寄付額報告と年度末に向けて、寄付のお願いがあった。

(6) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一副委員長)

後藤 司郎君

(7) ニコニコボックス紹介

・若杉 武君 誕生日祝い、ありがとうございます。馬齢を加えて恥多し とならないために、元気で頑張らなくちゃあと思っています。

(8) 会員スピーチ「ローターアクト事業参加報告」

PETS クラブ会長エレクト研修セミナー

第 2560 地区ローターアクト第 44 回 地区大会

第 26 回全国ローターアクト研修会

第 2560 地区 地区研修・協議会

地区ローターアクト委員 高橋清文君

青少年奉仕委員長 塚田正幸君

ローターアクト委員長 石川治壺君

(9) 本日の出席率 73.63 %

2 週間前は祭日につき例会は開催されませんでした。

5月27日の例会予定

夜例会 18:30開会

会員スピーチ

「人は置かれた場所で花を咲かせよう

(老化に向き合う)」

フリーランス内科医 横山芳郎

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata

パスワード rcrerc

コ ラ ム

ALSOK 新潟総合警備保障㈱

執行役員 大澤 強

「若きころ凝っていたスポーツ」

若い頃の私の一コマです。

皆様は、ウインドサーフィンというスポーツをご存知でしょうか？見たことはあるけど、やった事は無いという方々が多いのではと思います。

ヨットでもなく、サーフィンでもない、丁度この二つを合わせて割ったようなスポーツです。

私は20歳代の頃、このWサーフィンの魅力に引き付けられ10年位続けました。

メインゲレンデは小針浜海岸、私が始めた頃は未だ小針浜脇の道路(R402)が開通していません、行き止まりだった頃です。

砂浜の砂が飛び始める、風速6~15m/S 位が私が楽しめる領域だったかと思います。

きっかけは、今はない「レーザーディスク」で山下達郎さんの「ビッグウェーブ？」を友人と見た時です。

映像の中でこのWサーフィンをしている人が気持ち良さそうで、友人と何も分からないまま初めましたが、それなりに楽しむ事ができるように・・・

しかしながら、結婚し子供ができるとなかなか疎遠になり、気がつくとウェットスーツが、着れない体になっていました。

今年は野球をがんばり、少しは体重を落としたいと思う、今日この頃です。

